

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称 Sample A
会社名 SDSサポートオフィス
住所 東京都江戸川区〇〇-〇〇-〇〇
電話番号 03-〇〇〇〇-〇〇〇〇
メールアドレス info@sds-sup-office.com

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性 皮膚腐食性/刺激性 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分2
水性環境有害性 短期（急性） 区分1

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険
H315 皮膚刺激
H319 強い眼刺激
H400 水生生物に非常に強い毒性

注意書き

安全対策

P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと
P273 環境への放出を避けること
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること

応急処置

P302 + P352 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと
P332 + P313 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること
P337 + P317 目の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること
P362 + P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること
P305 + P351 + P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること

破棄

P391 漏出物を回収すること。
P501 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度または濃度範囲 (%)	CAS No	EC No
水	69~71%	79-10-7	79-10-7
物質A	20~21%	12345-67-8	123-156-7
物質B	9~10%	98765-43-2	987-654-3

4. 応急措置

吸入した場合	気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	水と石鹸で洗浄。不快感が続く場合は、医師の診察を受けてください。
目に入った場合	水で洗浄。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
飲み込んだ場合	目の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受ける口をすすぐこと。 飲み込んだ場合、気分が悪いときは医師に連絡すること。
予想される急性症状及び遅発性症状	データなし
最も重要な兆候及び症状	データなし
応急措置をする者の保護	救助者は「8. ばく露防止及び保護装置」記載の」保護具を使用すること。火気に注意する。
医師に対する特別注意事項	データなし

5. 火災時の措置

消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス
使ってはならない消火剤	棒状注水
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火活動はできるだけ風上から行い、蒸気、燃焼ガスの吸入を避ける。
消火を行う者の保護	火災発生場所周辺への関係者以外の立ち入りを禁止する。 消火活動を行うとき、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置	作業者は「8. ばく露防止及び保護装置」記載の」保護具を使用する。 付近の着火原となるものは速やかに取り除く。着火した場合に備えて消火剤を用意する。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離す関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項 回収・中和	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意す少量の場合、不活性材料（例えば、乾燥砂又は土等）で流出物を吸収して、密封できる容器に回収する。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
封じ込め及び浄化方法・機材 二次災害の防止策	危険でなければ漏れを止める。 すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項	熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。 静電気対策を行うこと。 ミスト、蒸気、スプレーの吸入、飲込みを避けること。 環境への放出を避けること。 取り扱い後はよく手を洗うこと。 『10. 安定性及び反応性』を参照。
保管	消防法、労働安全衛生法等の規制に従う。 『10. 安定性及び反応性』を参照。
接触回避 技術的対策 混触危険物質 保管条件	熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。 —禁煙— 酸化剤から離して保管する。 容器は直射日光や火気を避けること。 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。
容器包装材料	データなし

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

化学名又は一般名	管理濃度	日本産業衛生学会 許容濃度	ACGIH 許容濃度
物質A	設定なし	許容濃度: 1 ppm	TLV-TWA: 1 ppm
物質B	設定なし	設定されていない	設定されていない

設備対策

消防法の規制に従う。
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
作業場には防爆タイプの全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

保護具

呼吸器の保護具
手の保護具
眼の保護具
皮膚及び身体
の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。
適切な保護手袋を着用すること。
適切な眼の保護具を着用すること。
適切な保護衣を着用すること。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状	固体
色	白色
臭い	特異臭
pH	約7
融点・凝固点	37°C (融点)
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	202°C (クリーブランド開放式)
自然発火温度	データなし
燃焼性 (固体、ガス)	データなし
爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
蒸発速度 (酢酸ブチル = 1)	データなし
比重 (密度)	0.94 (30/20°C)
溶解度	水に可溶
オクタノール・水分配係数	データなし
分解温度	データなし

粘度	データなし
粉じん爆発下限濃度	データなし
最小発火エネルギー	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の取り扱いにおいては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	製品を開いた容器や容器に入れたまま放置しないこと。密閉容器に入れて保管すること。
混触危険物質	酸および酸化性物質との接触を避けること。
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	物質A ラット、LD50 8.6g/kg マウス、LD50 4.9g/kg 物質B ラット、LD50 7.6g/kg マウス、LD50 4.9g/kg
経皮	物質A ラット、LD50 : >2000mg/kgで死亡なし 物質B ラット、LD50 : >2000mg/kgで死亡なし
吸入	吸入（ガス）： データなし 吸入（蒸気）： データなし 吸入（ミスト）： データなし
皮膚腐食性/刺激性	皮膚刺激性はありません。皮膚科医の管理下で52名のボランティアを対象に実施されたヒト反復貼付試験（HRIPT）において、忍容性が良好でした。
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	眼に対する刺激性(物質A)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	in vitro試験(復帰突然変異試験、Ames試験、染色体異常試験、不定期DNA試験)、in vivo試験(マウス小核試験)で全て陰性。
発がん性	発がん性は認められない
生殖毒性	ラットの生殖毒性試験、催奇形性試験において生殖毒性影響がみられていない(物質A、物質B)
特定標的臓器毒性（単	データなし
特定標的臓器毒性（反	データなし
誤えん有害性	データなし

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期（急性）	魚類（ファットヘッドミノー）、96時間でLC50:0.48~12mg/L
水生環境有害性 長期（慢性）	データなし
オゾン層への有害性	データなし
分解性	好氣的、嫌氣的条件で容易に生分解される。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

国際規制	該当法令なし
------	--------

**国内規制
特別安全対策**

該当法令なし
輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等が無いことを確認する。
転倒、落下、破損が無い様に積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15. 適用法令

労働安全衛生法	ラベル表示・SDS交付等の義務対象物質 物質A
化学物質排出把握管理促進法	該当しない
化審法	優先評価化学物質 物質A
毒物及び劇物取締法	該当しない
消防法	危険物第4類 第4石油類 危険等級Ⅲ (6000L)
海洋汚染防止法	該当しない
船舶安全法	該当しない

16. その他の情報

記載内容の問い合わせ	SDSサポートオフィス	info@sds-sup-office.com
------------	-------------	-------------------------

- 参考資料：
- ・ GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS) JIS Z 7253 : 2019
 - ・ (社)日本化学工業協会、GHS対応ガイドライン 製品安全データシートの作成指針改訂2版、平成20年10月
 - ・ GHSに基づく化学物質等の分類方法 (JIS Z 7252 : 2019)

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載の含有量、物理的及び化学的性質、危険・有害性等の数値は規格及び保証値を示すものではありません。また、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。また注意事項は通常の取扱を対象としたものですので、特別な取扱をする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。